

97-1 大宮氷川神社と盆栽村へ(6.5km/10.5km)



長いケヤキ並木の参道から大宮氷川神社そして大宮公園を経て、世界に知られる大宮盆栽村を訪ねる。

【道順】

さいたま新都心駅→大宮氷川神社参道入り口→大宮氷川神社参道→大宮氷川神社→大宮公園→青木昆陽の碑・基準水準点→大宮公園弓道場→さくら通り→漫画会館・植竹稻荷神社→藤樹園→大宮盆栽美術館→蔓盛園→盆栽四季の家→芙蓉園→(大宮公園駅) **大和田公園**→**大宮第二公園**→**大宮第三公園**→**大宮駅**

【街歩き解説】

・大宮氷川神社

大宮氷川神社は2000年以上の歴史をもつといわれ、大宮の地名の由来にもなった日本でも指折りの古社。武蔵一宮として関東一円の信仰を集め、初詣には多くの参拝客で賑わう。氷川神社名の社は大宮を中心に、埼玉県および東京都下、神奈川県下におよびその数は280数社を数える。

その氷川神社の参道は中山道から南北に2kmに及び、両側に美しいケヤキ並木が並んでいる。昭和初期には鬱蒼とした杉並木で覆われていて「並木十八丁鉾杉つづき」と歌われていた。



大宮氷川神社参道

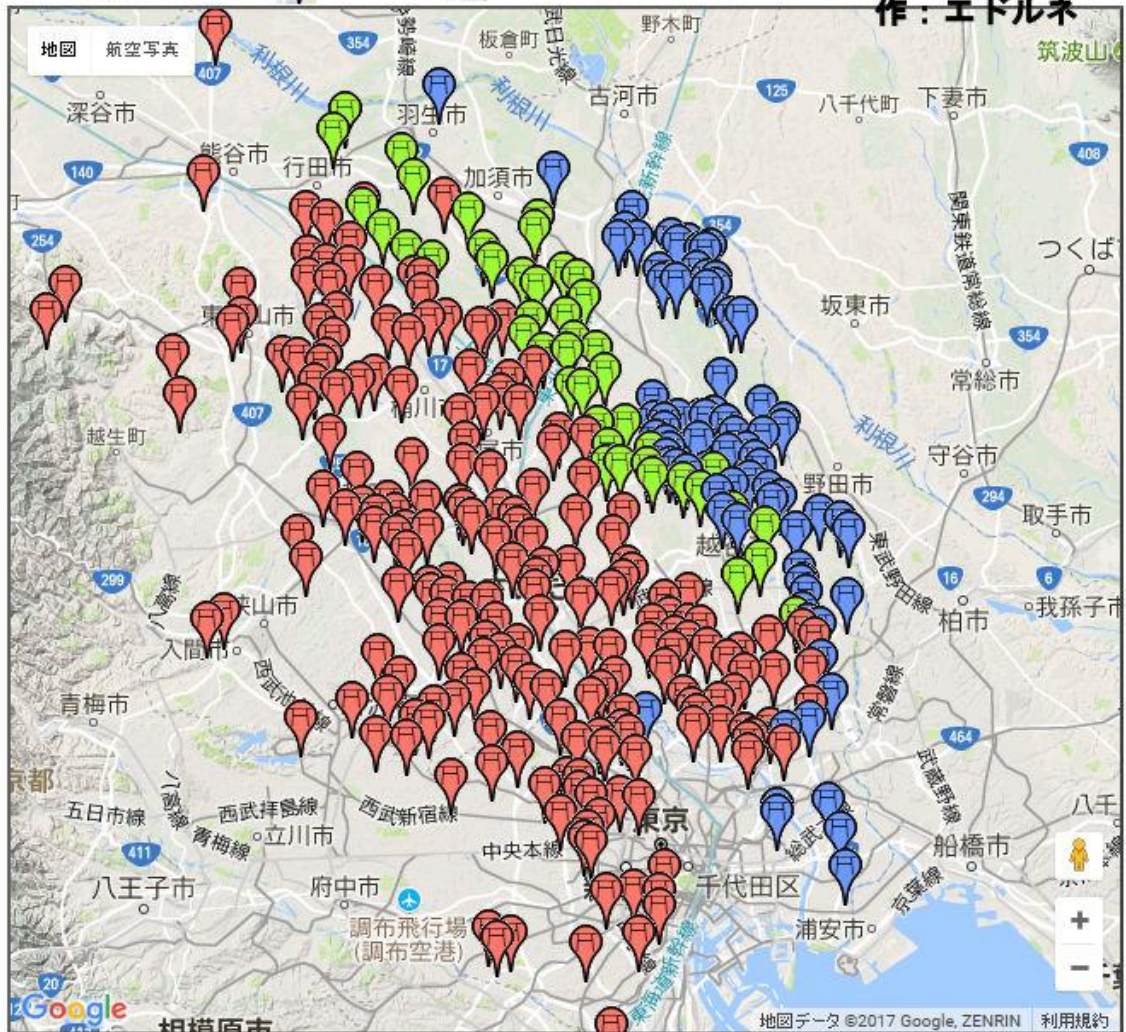
・緑のトンネル氷川参道

氷川参道は、一の鳥居から三の鳥居までの約2キロメートルの並木道である。一の鳥居ひろば、山丸公園、平成ひろば、天満神社、竹林のある氷川の杜文化館を過ぎると、まもなく氷川神社である。参道の両側にはケヤキ、クスノキ、エノキ、スダジイなど30種以上、約700本の樹木が植えられ、このうち巨樹20本が市の天然記念物に指定されている。また、一の鳥居の手前に「是より十八丁」という標識が建っていて、参道を、一丁、二丁と「丁石」を見つけながら、また巨樹を探しながら散歩するのも楽しいものである。

・「荒川の守り神氷川神社を巡って」

この氷川神社は荒川に沿って、香取神社は利根川に沿って、久伊豆神社（ひさいずじんじゃ）は元荒川に沿って分布している。その理由は、土地の開発の時間差があるという。氷川神社は、比較的早い時期に開発が進んだ、大地やその末端部地域の集落によって祀られた。香取神社は、水害の脅威を受けやすい元荒川を西の限界とした沖積低地での開発が進んでから、その地の集団によって祀られた。久伊豆神社もまた、元荒川に沿う祭祀圏を持つ集団によって祀られた（「古代祭祀と文学」西角井正慶氏）。

氷川神社 久伊豆神社 香取神社 **氷川・久伊豆・香取神社分布地図**
作：エドルネ



・大宮公園

氷川神社に隣接した大宮公園は、1884年（明治17年）3月大宮宿（昔の宿場町）その付近の村10におよぶ村の代表矢部忠右衛門、白井輔七、岩井右衛門ら43名は県令吉田清英に対して「公園及び維持方法ノ儀ニ付願上ゲ奉り候」という嘆願書を提出した。嘆願書には、氷川神社が国に差し出した官有地を人民の散歩、運動、健康保全のため人民の借楽園の地にしたい。維持費は有志の者が金千円を拠出し、樹木等は寄付を募るとあった。

明治18年太政官布達により氷川公園の名称で誕生し、同31年に県が管理することになった。当初は東京の庭園師佐々木という者の設計に拠って建設が進められたが、1921年（大正10年）には、日比谷公園を手掛けた日本の公園の父本多静六博士と田村剛博士による「氷川公園改良計画」により、大規模な公園整備・拡張が進められ桜の植樹と埼玉県営大宮公園球場などが整備された。園内には、甘藷の栽培で知られる青木昆陽の碑がある。

青木昆陽之に係る碑は、「甘藷試作跡（東京都文京区・小石川植物園内）」「甘藷先生頌徳碑」（三芳町木の宮）地蔵堂」にもあり、墓は目黒不動尊瀧泉寺裏手墓地にある。

現在の大宮公園には、ソメイヨシノをはじめ約1,000本の桜があり、「日本さくら名所100選」にも選ばれている人気スポットとなっている。ブラタモリでも紹介があったように、過去には、森鷗外や寺田寅彦など、多くの文人も来遊しており、公園内の旅館に滞在した。正岡子規が夏目漱石を呼び寄せた様子が、子規の随筆「墨汁一滴」に描かれている。

『墨汁一滴』正岡子規

明治二十四年の学年試験が始まったが段々頭脳が悪くなつて堪へられぬやうになつたから遂に試験を残して六月の末帰国した。九月には出京して残る試験を受けなくてはならぬので準備をしようと思ふても書生のむらがつて居るやかましい処ではとても出来さうもないから今度は国から特別養生費を支出してもらふて大宮の公園へ出掛けた。万松楼といふ宿屋へ往てここに泊つて見たが松林の中にあつて静かな涼しい処で意外に善い。それにうまいものは食べるし丁度菽の盛りといふのだから愉快で愉快でたまらない。松林を徘徊したり野逕逍遥したり、くたびれると帰つて来て頻りに発句を考へる。試験の準備などは手もつけない有様だ。この愉快を一人で貪るのは惜しい事だと思ふて手紙で竹村黄塔を呼びにやつた。黄塔（竹村黄塔：教育者）も来て一、二泊して去つた。それから夏目漱石を呼びにやつた。漱石も来て一、二泊して余も共に帰京した。大宮に居た間が十日ばかりで試験の準備は少しも出来なかつたが頭の保養には非常に効験があつた。しかしこの時の試験もごまかして済んだ。

この年の暮には余は駒込に一軒の家を借りてただ一人で住んで居た。極めて閑静な処で勉強には適して居る。しかも学課の勉強は出来ないで俳句と小説との勉強になつてしまふた。それで試験があると前二日位に準備にかかるのでその時は机の近辺にある俳書でも何でも尽ことごとく片付けてしまふ。さうして机の上には試験に必要なノートばかり置いてある。そこへ静かに座をしめて見ると平生乱雑の上にも乱雑を重ねて居た机辺きへんが清潔になつて居るで、何となく心持が善い。心持が善くて浮き浮きすると思ふと何だか俳句がこのこと浮んで来る。ノートを開いて一枚も読まぬ中うちに十七字が一句出来た。何に書かうもそこらには句帳も半紙も出してないからラムプの笠に書きつけた。また一句出来た。また一句。余り面白さに試験などの事は打ち捨ててしまふて、とうとうラムプの笠を書きふさげた。これが燈火十二ヶ月といふので何々十二ヶ月といふ事はこれから流行はやり出したのである。

かういふ有様で、試験だから俳句をやめて準備に取りかからうと思ふと、俳句が頻りに浮んで来るので、試験があるといつても俳句が沢山に出来るといふ事になつた。これほど俳魔に魅入られたらもう助かりやうはない。明治二十五年の学年試験には落第した。リース先生の歴史で落第しただらうといふ推測であつた。落第もするはずさ、余は少しも歴史

の講義聴きに往かぬ、聴きに往ても独逸ドイツ人の英語少しも分らぬ、おまけに余は歴史を少しも知らぬ、その上に試験にはノート以外の事が出たといふのだから落第せずには居られぬ。これぎり余は学校をやめてしまふた。これが試験のしじまひの落第のしじまひだ。

余は今でも時々学校の夢を見る。それがいつでも試験で困しめられる夢だ。(六月十六日)

・大宮公園

氷川神社に隣接した大宮公園は、明治 18 年太政官布達により氷川公園の名称で誕生し、同 31 年に県が管理することになった。現在ある県営公園の中では最も長い歴史を持つ公園である。

当初は東京の庭園師佐々木という者の設計に拠って建設が進められた。1921 年（大正 10 年）には、日比谷公園を手掛けた日本の公園の父本多静六博士と田村剛博士による「氷川公園改良計画」により、大規模な公園整備・拡張が進められ桜の植樹と埼玉県営大宮公園球場などが整備された。園内には、甘藷の栽培で知られる青木昆陽の碑がある。

この大宮公園の歴史をもう少したどると。

明治時代に政府は、寺院・神社の整理を行うとともにその領地の大部分を国有地にした。1873 年（明治 6 年）1 月太政官（明治政府）が各府県に対して寺社の境内地名所・旧跡地に公園を設定するからその候補地を選定する旨を国民に知らせた。埼玉県では 1874 年（明治 7 年）11 月浦和調宮神社境内を借楽園とする告知をした。これが浦和公園（調（つき）公園）の前身であるが、この頃大宮氷川神社旧境内地等も若干の樹木を伐採、小径をつけたくらいのものが造られたが、公園とは呼べるものではなかった。

その後、日本鉄道東北本線大宮駅の開設運動と平行して公園の設置の働きかけも行われた。1884 年（明治 17 年）3 月大宮宿（昔の宿場町）その付近の 10 村の代表矢部忠右衛門、白井輔七、岩井右衛門ら 43 名は県令（現在の県知事にあたる人）吉田清英に対して「公園及び維持方法ノ儀ニ付願上ゲ奉リ候」という嘆願書を提出した。嘆願書によると氷川神社が国に差し出した官有地(国有地)のうちの二カ所あわせて 13 町 3 反 1 畝 8 歩を人民の散歩、運動、健康保全のため人民借楽園の地とされたいこと、維持費としては有志の者が金千円を拠出・銀行預金とし利息を充当、また花、樹木等寄付を募るとした。埼玉県では直ちに内務卿山縣有朋、農務卿西郷従道に宛てて「官幣大社氷川神社引裂上地、公園ト定メラレ度キ伺」を提出、それに対し二ヶ所のうち寿能城跡地を除いて公園が設置が認められた。

埼玉県は、1884 年（明治 17 年）12 月この公園設計・建設を東京の庭園師佐々木という者に依頼した。1885 年（明治 18 年）4 月に公園の管理・休憩所として含翠亭という建物が完成し園内や東屋、ベンチを設置し、1885 年（明治 18 年）9 月 22 日に開園となった。

公園の創設費は民間の寄付と園内の伐採した樹木の売払い金を元にし。

県営とは名前だけであったが、1891年（明治24年）内務省訓令により公園は所在地の町で維持保存をすることになり北足立郡大宮町に、その後1898年（明治31年）4月に県管理となった。1921年（大正10年）には、のちに日比谷公園設計で知られ、日本の「公園の父」と呼ばれる林学博士本多静六と田村剛による「氷川公園改良計画」により、大規模な公園整備・拡張が進められ桜の植樹と埼玉県営大宮公園球場などが整備された。

1962年（昭和37年）には都市計画公園として決定され、1980年（昭和55年）に「第二公園」が大宮公園東側の見沼に、2001年（平成13年）は「第三公園」が第二公園南側の見沼に開設された。また、第二公園の北には旧大宮市により市営大和田公園も開設されている。



蔓青園・盆栽美術館で

・大宮盆栽村と美術館

江戸時代から明治・大正時代まで、現在の東京都文京区千駄木にある団子坂には、多くの植木屋が集まって、菊人形づくりや盆栽業を営んでいた。しかし、大正12年（1923）に起きた関東大震災をきっかけに、より広い土地を求め、盆栽業者だけの村を作る構想によって誕生したのが、大宮盆栽村である。

現在の盆栽村周辺には、およそ9軒の盆栽園が営まれており、大宮盆栽村の名は世界的に知られている。村内には、もみじ通り、けやき通り、さくら通りなどがあり、四季折々の散策が楽しめる観光地ともなっている。

美術館には、盆栽の名品、優品をはじめ、盆栽用の植木鉢である盆器や、一般には水石と呼ばれる鑑賞石、盆栽が画面に登場する浮世絵などの絵画作品、それに、盆栽に関わる各種の歴史・民俗資料等が公開されている。

辺りには、盆栽村誕生に貢献した清水瀧庵翁記念碑、観光客が盆栽村で休憩するための四季の家や、晩年を盆栽村で過ごした日本近代漫画の先駆者北澤楽天の邸宅・「楽天居」跡

に建てられたさいたま市立漫画会館もある。



休館日：木曜日（国民の祝日をのぞく）、年末年始

芙蓉園（ふようえん）	さいたま市北区盆栽町 96
九霞園（きゅうかえん）	さいたま市北区盆栽町 131
清香園（せいこうえん）	さいたま市北区盆栽町 268
蔓青園（まんせいえん）	さいたま市北区盆栽町 285
藤樹園（とうじゅえん）	さいたま市北区盆栽町 247
松濤園（しょうとうえん）	さいたま市北区盆栽町 112-4
松雪園（しょうせつえん）	さいたま市北区東大成町 2-640
盆栽大野（ぼんさいおおの）	さいたま市見沼区片柳 1373
一青園（いつせいえん）	さいたま市見沼区染谷 2-293

・大宮第二公園・大宮第三公園

第二公園では、広い園内に咲き乱れる約 520 本の梅を見ながら散歩できるほか、四季折々の花や木の香りなどを楽しむことができる。第三公園は、見沼田圃の原風景を活かしたやさしい緑と水空間を整備した公園である。

辺りは、1594 年（文禄 2）の利根川東遷や 1629 年（寛永 6 年）の荒川の西遷によって、池沼が広がる（悪水）地であった。土木家で知られる伊奈備前守忠次の次男忠治は、附島（緑区）と木曾呂（川口市）の間に約 8 町の長さを持つ「八丁堤」を築き、見沼へ流れ込む水

を貯留した（「見沼溜井」）。さらに、江戸時代に徳川八代将軍吉宗の命を受けた井沢弥惣兵衛為永によって、見沼に代わる「見沼代用水」が作られる。見沼代用水は、取水口の利根川から見沼まで全長 60km。そこからかつての見沼用水につなげ、末端は現在の東京都足立区まで、84.5 kmにも及ぶ 2 本の水路（東縁と西縁）からなり、これによって、あたりの新田開発が進んだ。

土木技術のことでは、川の下に水路をくぐらせる伏越（53 基）、川の上に水路を渡す掛渡井（4 基、関棹（取水口）は大小合わせて 164 基、主要な橋は 90 ヲ所も設置された。ほかに、1731 年（享保 16 年）に完成した日本最古の閘門式運河「見沼通船堀」が知られる。

コースマップ

